

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

平成29年2月23日（木）

【協議事項】

1 再発防止命令の発出に伴う聴聞の実施について

（暴力団対策部）

警察本部から「平成29年3月13日、警察本部において、五代目工藤會幹部に対する福岡県暴力団排除条例に規定する禁止違反行為の再発防止命令の発出に伴い、聴聞の手続を実施することとしたい。御審議お願いする。」旨の説明があった。

公安委員から「暴力団対策に関しては、暴力団排除条例を、今回のように具体的に機能させていくことが重要なポイントになると感じる。」旨の発言があり、警察本部から「今後も、条例を有効に活用してまいりたい。」旨の説明後、本件は了承された。

【報告事項】

1 平成28年度警察官採用試験実施結果及び平成29年度同実施計画について

（警務部）

警察本部から「平成28年度の実施結果については、採用予定数337人のところ、受験者数4,837人となっており、全国と比較しても本県は高い競争倍率を維持している。平成29年度は331人を採用予定である。また、警察官Cの英語区分における受験資格の一部見直しを実施している。」旨の報告があった。

公安委員から「英語区分について、今回、文部科学省の能力対照表に合わせた基準に見直したことは良いことであると思う。」旨の発言があった。

2 平成29年度総合監察の実施計画について

（警務部）

警察本部から「平成29年度の監察項目の主な改善点については、監察項目を一部見直し、業務上の非違事案の再発防止等の観点から、適切な手続きの履行や組織的管理の徹底のため4点の項目を追加している。また、申請手続きのシステム化や監査項目と重複する項目を削除した。対象所属は、本部、警察署等59所属を予定している。」旨の報告があった。

公安委員から「「現場執行力の強化」に関しては、若い職員のレベルは、徐々に上がっていると感じる。「厳正な規律の保持」に関しては、最近起きている非違事案を見ると、事務監察において、もう少し突っ込んだヒアリングが出来ていたら、情報を把握できたのではないかと、そういう情報が入らないまま、長期間放置され、取り返しのつかないことになっているのではないかと感じる。ヒアリングの仕方なども、更に錬度を上げていく必要があると思う。厳正な規律の保持は警察組織の生命線なので、是非、配慮して頂きたい。」「一般的には、到達目標を出し、1年間その進捗を見ていくことになると思うが、その到達度を監察していくというようなことはしないのか。」旨の発言があり、警察本部から「数値目標の到達度を監察する項目は一部設定しているが、業務実績というよりは「きちんと業務管理や人事管理がされているか」という観点で監察を行っている。」旨の説明があった。

3 投資仲介業者による詐欺事件の検挙について

(生活安全部)

警察本部から「博多警察署ほか3警察署及び生活保安課は、被害者から受け取った投資金を仲介することなく、会社の経費等に費消しているにもかかわらず、3か月後には利益を受け取ることができるなどと嘘を言って合計約2,100万円を詐取した詐欺事件について、平成29年2月18日、大阪府居住の投資仲介業の元実質経営者ら5人を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「今回の事件は、ニセ電話詐欺を警戒した金融機関からの通報により検挙につながっており良かったが、これがなければ被害は更に拡大していたと思う。」「今のゼロ金利の状況で、このような高配当の話は常識として考えられないことだと思うが、詐欺師も相当の錬度であり、警察や金融機関の窓口だけでは阻止にも限界がある。だまされないような自己防衛力を、もっと高めるための対策について検討していく必要があると思う。」旨の発言があった。

4 五代目工藤會傘下組織組員らによるニセ電話詐欺事件の検挙について

(暴力団対策部)

警察本部から「八幡西警察署及び北九州地区暴力団犯罪捜査課は、長野県居住の被害女性に電話を架け、親族になりすまして、現金が必要である旨申し向け、会計事務所の職員を装って同女方に赴き、現金1千万円を騙し取ったニセ電話詐欺事件について、平成29年2月20日までに、五代目工藤會傘下組織組員ほか2人を逮捕した。」旨の報告があった。